



ゴール & ストラテジ入門 — 残念なシステムの無くし方 —

ビクター・バシリ、他 著

早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所
ゴール指向経営研究会 訳

ISBN: 978-4274505843
オーム社刊
四六判・244 頁
定価 2,800 円 (税抜)
2015 年 9 月 26 日刊

残念なシステムの無くし方

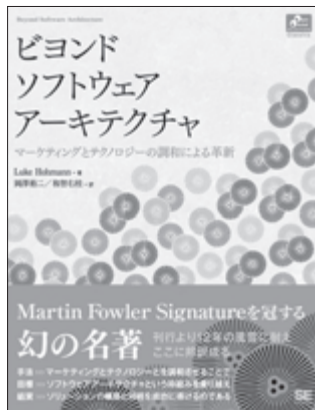
本書のまえがきに原著者の一人であるロンバック博士は以下のように書いてくださっている。「GQM+Strategies は、10 年以上に及ぶ IPA/SEC とフランホーファー IESE の間の技術連携における重要な成果でもある。」当書評を書いている私も訳者及び監訳者の一人に名前を連ねると共に、事例の提供もしている。GQM+Strategies を含むどんな方法論もそれが最初に提案されてから実戦に至るまでに 10 年以上を必要とするのは一般的である。

IPA/SEC では、研究者が独断でプロジェクトを進めるというのではなく、IPA/SEC での検討の結果を現場に技術移転することを踏まえ、当該方法論に関心を持っていただき、実践してくださるみなさんをメンバーとする「ワーキンググループ」という活動を進めている。本書で説明している方法論のオリジナルが英語であるため、ワーキンググループにおいて訳を作成ことにした。この時に IESE との間でのやり取りを仲立ちし

たのが新谷であるが、この活動は初期のころから本として出版する計画を作ったころにまで継続した。本として広く世間にでることになり、更に訳注を追加しなければならないものと思っているが、そのためには版を重ねることが必要になり、多くのみなさんに読んでいただきたい。

本書では日本において「なぜなぜ」として広く実戦されているものと類似の考え方とも言える。今達成したい事象をゴールとストラテジに分解し、それを段階的に詳細化する。その過程で明確化しておかなければならない諸事項を文書化し、ぬけもれをなくし、確かさが十分検証されていることを確認しようというものである。私たちが解決し達成しようとする対象は大きく複雑になっているため、複数のストラテジとして分割して対応することになる。その道筋を本書は読者に提供してくれるものである。

(新谷 勝利)



ビヨンドソフトウェア アーキテクチャ

ルーク・ホフマン 著

岡澤裕二、和智右桂 訳

ISBN: 978-4798139623
翔泳社刊
B5 変型判・368 頁
定価 3,800 円 (税抜)
2015 年 10 月 1 日刊

なぜ優れたソフトウェアがビジネスで 失敗するのか

著者は OOPSLA や UML World の常連スピーカー ルーク・ホフマンである。原書は Martin Fowler シグネチャシリーズの一冊として刊行されている。これまで、「アーキテクチャ」について技術的な観点から書かれている本は数多くあるが、ビジネスの視点から考えるべきポイントを網羅している本はそう多くないであろう。本書はその点を網羅していることを特徴としている。技術面、またビジネス面でのアーキテクチャ論にしても経験豊富な著者の実体験に根ざす優れた考察と共に記述されている。

ビジネス視点でのアーキテクチャといっても想像できない方も多いのではないかと。例えば本書の第 9 章には「ブランドとブランド要素」が記述されている。「アーキテクチャ」の本に「ブランド」の章があること自体、私には新鮮に感じてしまったが、アー

キテクチャが継続的な価値をもたらすためには、対象物の成り立ちや成長・進化といった時間的広がりにも目を向けなければならないことが理解できた。

訳者は情シス部門メンバーへのメッセージとして「アジャイルや SCRUM に興味を持つのもよいけど、アーキテクチャについてきちんと考えてみるべきである」と綴っている。現在、エンジニアの大多数がアーキテクチャや設計についてのきちんとした教育を受けることなくソフトウェアを書いているのが実情ではないだろうか。本書は、そのような技術者にはもちろん、また、アーキテクチャの技術論をおさえている方々にも読んでいただきたい。新たな気づきが得られるはずである。

(遠藤 秀則)